

付属語 ① 付属語とは(助詞・助動詞の性質と働き)

1 付属語 …それだけで文節を作れず、常に自立語と一緒に文節を作る。

例 ・ふみひとは／いつも／一人で／寝るらしい。

2 付属語には二種類の品詞がある。

① 助動詞 …主に用言の後について気持ちを表したり、意味を添えたりする付属語で、活用する。

例 ・今日は／ピアノの／レッスンに／行かないから、／家で／勉強しよう。

② 助詞 …自立語や助動詞などの後について、語と語の関係を表したり、意味を添えたりする付属語で、活用しない。

例 ・今日は／ピアノの／レッスンに／行かないから、／家で／勉強しよう。

次の文章の—線部の中から付属語をすべて選び、記号で書きなさい。

良平は一瞬間あつけにとられた。もうかれこれ暗くなる事、去年の暮れ母と岩村まで来たが、今日の途はその三、四倍ある事、それを今からたった一人、歩いて帰らなければならぬ事、—そう云う事が一時にわかったのである。良平はほとんど泣きそうになった。が、泣いても仕方がないと思った。泣いている場合ではないとも思った。彼は若い二人の土工に、取ってつけたようなおじぎをすると、どんどん線路伝いに走り出した。

芥川龍之介『トロッコ』より

- ③
- ⑤
- ⑥
- ⑧
- ⑨
- ⑩

次の【】内の数をヒントに、各文に含まれている助動詞に—を、助詞には〓線を書きなさい。

① 隣の犬と向かいの犬は仲が悪い。

② 授業でわからないことは、先生に聞いた。

③ 明太子をたらふく食べたいと強く思う。

④ 姉の踊る姿はまるで白鳥のようだ。

⑤ アザラシの赤ちゃんはまだ泳ぎが下手です。

